

除染の目的

除染の方法

地域の実情に合わせて、除染を進めてきました。

具体的な除染方法は、場所ごとに異なります。

放射性物質の状況により、効果的な除染の方法は異なります。まずは空間線量率を測定し、それぞれのケースについて最適な方法が選択されます。除染作業の前後で放射線量を測り、効果を確認します。



放射線量が比較的低い地域の除染方法の例

除染事例
1



●民家の軒下・雨樋の清掃



●草木の刈り取り



●側溝の汚泥の除去 (提供) 福島市

●以下に示している除染の方法は、業者による一例です。

放射線量が比較的高い地域の除染方法の例（上記の例に加えて）

除染事例
2



●校庭表土の削り取り (提供) JAEA



●建物の屋根等の洗浄



●庭土等の土壤の削り取り (提供) 伊達市

環境省「除染情報サイト」より作成

この図は、除染の具体的な方法を説明しています。

放射線量が比較的低い地域でも、軒下、雨樋、道路の側溝等には、放射性物質を含んだ堆積物(落葉や土砂)がたまり、その周辺の空間線量が高くなることがあります。このような所では、落葉や土砂の除去、洗浄(洗い流す)等を行います。

植え込み、下草、落ち葉に、放射性物質が付着していることもあります。このような所では、草木の刈り取り、枝打ち、落ち葉の清掃等を行い、除去します。

放射線量が比較的高い地域では、低い地域での除染の方法に加えて、別の除染作業が必要になることがあります。例えば、放射性物質はほとんどが地表から数cmに存在しているので、表土を薄く(例えば、5cm)削り取り、取り除くことや、下層の土と入れ替えること(天地返し)で、ほとんどの放射性物質の影響を抑えることができます。

建物や道路では、屋根、壁、舗装面等にも放射性物質が付着していることがあります。ただし、表面の素材の性質によっては、材料に放射性物質が強く吸着されていることがあります。除染の効果は限定的となる可能性があります。

農地では、人への被ばくの影響だけでなく、農作物への影響も考えて、適切な方法を選択することが必要になります。例えば、事故以降に耕された農地では、放射性物質は表土より少し深い所にありますが、このような土を全て除去してしまうと、農業に適さなくなるので、深耕(耕深30cmを基本として深く耕すこと)や反転耕(表層の土を下層に、下層の土を表層に反転させること)(下巻P57「農産物に係る放射性物質の移行低減対策(1/5)ー農地の除染ー」)等様々な方法を実施します。

本資料への収録日：平成25年3月31日

改訂日：平成30年2月28日